

平成24年度 地域家庭教育県北ブロックセミナー

日時:平成24年12月9日(日) 午後1時より 場所:福島県男女共生センター

県では、家庭における子どもをはぐくむ環境づくりや地域教育力の向上に向け、現状と課題をふまえ子どもたちの生活習慣の向上に向けて、実践的な取組みをしております。

今回のセミナーでは、目白大学の宇田川光雄氏を講師としてお迎えし、家庭の大切さや地域の力とそのつながりについて講演をしていただきました。さらに、県北域内での取組みを紹介し、子どものよりよい生活習慣の向上や家庭学習の定着に向けた取組みについて、みなさんと話し合い、考えていきました。

当日は、降雪の中、PTA関係者など約150名もの方に御参加いただきました。



1 開会

(1) 主催者あいさつ (県北教育事務所長 面川三雄)

(2) 諸連絡

2 講演

演題「家族の絆と地域の力でつくる子どもの未来」

講師目白大学人間学部講師 宇田川 光雄 氏

3 子どもをめぐる現状

(1) 「学習習慣の定着と生活習慣の向上に向けて」

県北教育事務所指導主事 高橋政広

(2) 「子どもの生活習慣等における現状と課題」

県北教育事務所社会教育主事 佐藤亮治

4 実践事例発表

(1) 福島市清水地区幼・保・小・中学校連携事業での家庭・学校・地域の取組み

発表者:福島市市立清水中学校長 君島勇吉 氏

(2) 本宮市立糠沢小学校での学校・PTA・地域(放課後子ども教室)の取組み

発表者:本宮市立糠沢小学校PTA会長 師 和彦 氏

発表者:本宮市放課後子ども教室コーディネーター 國分 進 氏

(3) 大玉村立大山小学校での学校・PTA・地域(学校支援地域本部)の取組み

発表者:大玉村立大山小学校長 安齋宏之 氏

講演(午後1時10分～午後2時40分)

演題「家族の絆と地域の力でつくる子どもの未来」

講師: 目白大学人間学部講師 宇田川光雄 氏

講師紹介

東京教育大学体育学部を卒業後、昭和47年に(財)日本レクリエーション協会に入局。子どもの遊びやゲームに造詣が深く、「レクリエーションの神様」と呼ばれております。その後、(財)全国子ども会連合会常務理事・事務局長。平成20年、国立山口徳地(やまぐちとくち)青少年自然の家所長に就任。現在、目白大学人間学部講師として教壇に立つかわら、全国各地で家庭教育、青少年教育に関わる御講演を行われるとともに、青少年の健全育成に携わられておられます。



1 アイスブレイキング

腕を上げたり下げたり、隣同士との交流遊びをしたり、「あんたがたどこさ」による遊びをしたりすることで、まずは場内が楽しい雰囲気になりました。

2 人形劇を通じて

子どもの「よいところ探し」

私たち親や大人は子どものよさを見つけようとしてもつい自分の考えや視点をあてはめてしまい、なかなか子どものよさを見つけられていない。そこで、ウサギ・サル・タヌキの人形劇を通じてそれぞれの「よいところ探し」をしてみました。それぞれの登場人物のよさを探すことで、地域で子どもが育つためには、「子ども観」「子どもを見守る目」が大切であることや親として子どもの自立心を育てることが大切であることを考えさせられました。

また、子ども一人一人の力をしっかり把握し、その力に応じた課題を与え、解決を主体的に促してあげること。そこに親としての役割があることを理解させていただきました。



目白大学人間学部講師 宇田川光雄 氏

3 地域の中で子どもを育てることの大切さ

子どもは地域の中で育てることが大切です。しかし、子どもの置かれている地域の状況はさまざまに変化してきています。

こうした地域の変化の中で子どもたちに新たな役割・課題を与え、目標を立ててあげる必要があります。

(1) 地域の中での「R I L A (リラ活動)」の推進

R…リサーチ (探す)

地域を知ろう。地域を調べよう。

I…イントレスト (興味を持つ)

地域に興味を持とう。

L…ライク (好きになる)

地域を好きになろう。

A…アクション (行動を起こす)

地域で行動を起こそう。

地域を見直すきっかけとして、「R I L A (リラ活動)」の推進を図ることが大切です。

リラ活動を推進することで、親も子どもももう一度自分たちが住んでいる地域を見直すことが大切なことです。

(2) 具体的な日常生活活動の展開の中で子どもにできることとして考えられること

- ・ あいさつは魔法の力…「挨拶」は、仏教用語で「心を開く」という意味が含まれています。だから、**あ**たたかい関心を示す、**い**つも行うこと、**さ**きに行くこと、**つ**づけて行うことが「あいさつ」では大切です。具体的な行動として挨拶があることを子どもたちに教えてあげたいです。
- ・ **そ**をつかんで返事 (へんじ) の力…「**う**」ではなく、「ハイ」といって、自分自身を自己 (**じ**) 表現できるようにしていくことが大切です。
- ・ 弁当が結ぶ愛…子どもに親が愛情を込めて弁当を作ってあげることで、子どもは素直に育ちます。親が子どもに手をかけてあげることでその愛情が子どもに伝わります。
- ・ ミラー効果で傾聴しましょう…私たち親や大人は、なかなか子どもの話を聞いてあげることができていません。子どもにしっかりと向き合い、子どもの話を聞いてあげることが大切です。その際に、子どもの話を親が繰り返し話すことで、共感する姿勢を示すとよいです。子どもは話を聞いてもらったと満足するものです。

(3) 地域は、狭い地域から広い地域まで幅が広い。しかし、子どもは地域の中で育てるのだということを再確認した上で、それぞれの地域で大人や親は子どもにどう関われるのか、どのような課題を子どもたちに与えられるのか、考えていかなければなりません。

○ 「地域の中で、みんなで子どもを育てる」ことを再確認できました。



変化してきた地域の中で子どもたちに親や大人はどんな役割や課題を与えられるだろうか？参加者も考え、話し合いました。

子どもをめぐる現状(午後2時55分～午後3時25分)

「学習習慣の定着と生活習慣の向上に向けて」県北教育事務所指導主事 高橋政広

全国学力・学習状況調査の結果をもとに、全国と比較した福島県の子どもの実態について話しました。

- ・ 家庭での学習時間が少しずつ伸びていること。
- ・ 読書については、個々の子どもたちの置かれている状況やそれぞれの興味・関心等に応じて、さらにきめの細かい読書指導が必要であること。
- ・ テレビ・ビデオ・DVDの視聴については、改善されている面があるが、さらなる改善が必要であること。

「子どもの生活習慣等における現状と課題」県北教育事務所社会教育主事 佐藤 亮治

家庭教育サポートブックをもとに、福島県の子どもの実態について話しました。

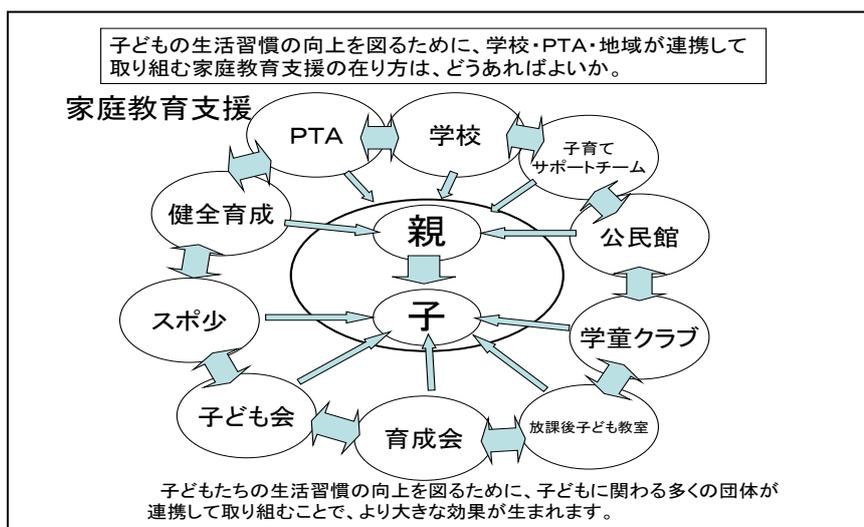
- ・ 基本的な生活習慣について…食事、睡眠
- ・ 家庭での約束事…テレビ・ビデオ・ゲーム、携帯電話
- ・ 心と体の健康…体力の低下、人工妊娠中絶実施率の推移
- ・ 会話と問題行動…食事と会話、家族の会話と問題行動



子どもの生活習慣の乱れ
家庭教育の抱えている課題



学校・PTA・地域が連携して家庭教育支援を行う必要性



具体的なデータを示しながら現状を伝え、子どもの生活習慣の向上や家庭学習の定着を図るためには、学校やPTAさらには地域が連携していくことがより効果的であることを話しました。

事例発表①(午後3時25分～午後3時40分)

「福島市清水地区幼・保・小・中学校接続事業での家庭・学校・地域の取組み」

発表者: 福島市立清水中学校長 君島勇吉 氏

取組みの概要

福島市では、中学校区ごとに幼・小・中学校の接続事業を実施しています。

福島市清水地区では、小一ギャップや中一プロブレムの解決を図るために、幼稚園・保育園・小学校・中学校、さらに地区健全育成推進会や各家庭と連携した取組みを実施しています。

平成22年度：組織確立、先進地区

(熊谷市) 研修、教員交流(授業・保育の公開)、地域のよさや学校の伝統を生かした実践(あいさつ運動、地域内美化活動) 連携の意識化を図るためのリーフレットの作成

平成23年度：平成22年度のあいさつ運動や地域内美化活動の実践活動の継続と充実を図ろうとしました。・・・しかし、東日本大震災により規模を縮小して実施しました。(のぼり旗を掲げてのあいさつ運動の規模縮小、美化活動の中止、交流活動の制限等)

平成24年度：「読書の日」活動実施

小学校・中学校での「朝の読書」、幼稚園・保育園での「読み聞かせ」などの読書活動の取組みを家庭にも広げようと、6月から各家庭で「私の家の読書(読み聞かせ)の日」を設定するよう呼びかけました。具体的には、①各家庭が家族で話し合いをもち、「読書(読み聞かせ)の日」を決定します。(原則毎週水曜日とし、家族全員が15分以上読書に取り組む) ②読書の時間にはテレビを消し、ゲームは中止とします。③リーフレットを作成し、各家庭での取組み内容を記入し実践の意識を高めます。以上の方法で取り組みました。

そして、9月に保護者や子どもにアンケート調査を実施しました。

<アンケートでの保護者や子どもの声> (一部)

- 「読書の日」を実施して、変わったこと
 - ・絵本に興味を持つようになった。(2歳児保護者)
 - ・自分から本を読むようになった。(小2保護者)
 - ・家族が本を好きになった。(小4児童)
 - ・家族で本について会話するようになった。(小6児童)
 - ・本を読むのが速くなった。(中2生徒)
 - ・集中力が高まる気がする。(中3生徒)
- 課題や要望等
 - ・祖父母と同居のため、なかなかテレビをつけないで過ごすことが難しい。(3歳児保護者)
 - ・苦痛。(小1保護者)
 - ・家の人にももっと読んでほしい。(小3児童)
 - ・必要ない。(中学生徒)

など保護者からはさまざまな回答が見られました。子どもの「考える力」を育成するためには、大変重要な取組みであるのとらえ、「読書の日」をその家庭に応じた柔軟な取組みに改善を図りながら取り組んでいます。



福島市立清水中学校長 君島勇吉 氏

事例発表②(午後3時40分～午後3時55分)

「本宮市立糠沢小学校での学校・PTA・地域(放課後子ども教室)の取組み」

発表者:本宮市立糠沢小学校PTA会長 師 和彦 氏

発表者:本宮市放課後子ども教室コーディネーター 國分 進 氏

取組みの概要

1 本宮市立糠沢小学校PTAの取組み

実践テーマ「地域や家庭との連携を通じたPTA活動」

(1) 地域とPTAとの連携

- ① 地区連合大運動会
- ② 防犯及び交通安全とラジオ体操の集い
- ③ 青少年育成標語づくり
- ④ 交通指導とあいさつ運動

(2) PTA教育講演会と家庭教育

① 中学校と連携した講演会

- ・ 中学校長を講師とし「自立」をテーマに小学校と中学校の接続について、保護者がどうかかわればいいのかを考える機会となりました。

② 養護教育センターと連携した講演会

- ・ 子どもの心をほぐす親のかかわり方をテーマに、家庭教育の中のコミュニケーションの工夫について実技を通して体験しました。

(3) 家庭学習・生活習慣への取組み

① 白沢中学校区パワーアップ大作戦

- ・ 白沢中学校区の保育所・幼稚園・小学校・中学校が同じ方針で取り組んでいます。

① 生活の仕方 ② 勉強の仕方 ③ 保護者の子どもへのかかわり方

② 幼稚園給食試食会

(4) 成果と課題

- ① 地域・家庭との連携や、地区小中学校との連携を通し、家庭教育の要となる「規範意識」「家庭学習」「食生活」に成果をあげることができました。

- ② PTA会費減額や学級費の廃止、年間PTA活動の精選を図ってきました。今後、児童数の減少や東日本大震災・原発事故の影響によっても、見直さなければならないことがあります。将来を担う児童・生徒のために何ができるかを判断基準として考えていきます。

2 本宮市放課後子ども教室「ぬかざわ遊友クラブ」の取組み

本宮市では、すべての小学校区に「放課後子ども教室」を設置しています。ぬかざわ遊友クラブは平成16年度から設置し子どもたちに有意義に放課後を過ごさせるために、毎週木曜日に開催しています。同じ場所にある「児童クラブ」とも連携しながら、子どもを見守っています。

受付方法や地域スタッフの役割分担などを工夫したり、年間活動プログラムをおはなし会、集団遊び、工作、昔遊びの4領域として、異年齢による集団あそびなど豊かな体験活動を実施したりすることで、充実した活動を展開し、参加児童数も年々増加しています。

<実践の成果と課題>

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ①遊びによる身体活動…成果 | 遊ぶ楽しさと達成感、基礎体力向上 |
| 課題 | 戸外での活動制限、活動場所制約 |
| ②異年齢集団の形成…成果 | 学年、地区、帰宅方法を越えての交流 |
| 課題 | 参加児童の増加、学習障がい児童などへの対応 |
| ③地域の人材の活用…成果 | ボランティア団体、民生委員、個人の協力 |
| 課題 | 保護者、学校、地域への広報活動と情報交換 |



本宮市立糠沢小学校

PTA会長 師 和彦 氏



本宮市放課後子ども教室コーディネーター

國分 進 氏

事例発表③(午後3時55分～午後4時10分)

「大玉村立大山小学校での学校・PTA・地域(学校支援地域本部)の取組み」

発表者:大玉村立大山小学校長 安齋宏之 氏

取組みの概要

大玉村では、平成23年度からコミュニティ・スクールを導入しています。村内の幼・小・中学校を「おおたま学園」(一つの学園体と見なした呼称)と称し、施設分離型の幼小中一貫校を目指しています。

おおたま学園を運営する組織として「おおたま学園コミュニティ・スクール委員会」(学校運営協議会)が設置され、その部会の一つとして、学校支援・地域教育部会があります。この部会では、学校支援地域本部と連携し、各学校へ学校支援ボランティアを派遣したり、放課後子ども教室の地域協議会と連携し、子どもたちが地域で学ぶ場の企画・運営を行ったりしています。

また、子ども・家庭支援部会では、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活動と連携し、子どもたちをめぐる問題の解決に向けたニーズを把握し、支援の在り方を検討・実施しています。

こうしたコミュニティ・スクールを推進する中で、①保護者、地域住民の学校教育への関心や参画意識が高まった。②学校支援ボランティア活動が活発化し、各園・各校の教育活動が充実した。③困難な課題(放射線への対応)への対応に対し、委員会の適切な意見や支持が、学校運営への信頼を高めた。などの成果が見られました。

こうしたコミュニティ・スクールのよさを生かし、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていくため、大山小学校PTAが中心となって新たな取組みを始めました。

① テレビを見ない日チャレンジキャンペーン(平成22年から実施)

ねらい…テレビを見ない日や時間帯を親子で話し合って決め、生活習慣を改善するきっかけとする。

取組み方…チャレンジシートにテレビを見る約束を立て、1週間分の取組み結果と感想を記入し、学校へ提出する。

② 漢検の全校受検支援(平成23年から実施)

ねらい…学校の全校受検の取組みを支援し、親子で漢字学習に取り組むことを通して、家庭学習の習慣化を図る。

支援方法…受検費用の補助、漢検推進委員会への協力、親子漢検受検の奨励

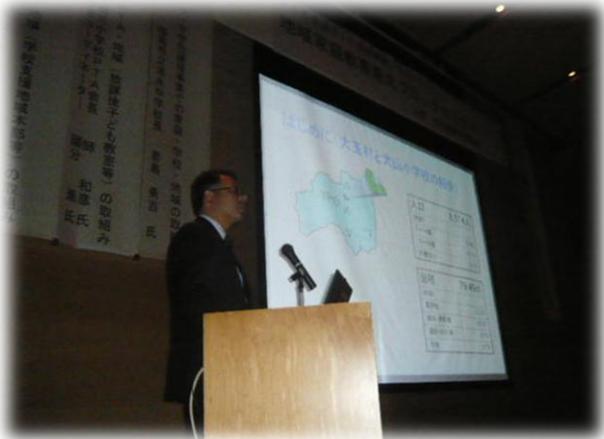
③ マイ弁当デー(1月実施予定)

ねらい…親子で弁当を作る活動を通して、望ましい食習慣の形成を図り、子どもの健康への関心を高める。

④ 親子で楽しくペンキ塗りをしよう!(3月予定)

ねらい…塗装がはがれた教室のロッカーや遊具のペンキ塗りを親子でボランティアとして取り組むことで、物を大切に作る心や愛校心を育む。

「子縁」(こえん)を通して新たな地域づくり(・よい地域がよい学校を創る・子育ては自分育ち・学びを通じて人がつながる)を進めます。



大玉村立大山小学校長 安齋 宏之 氏

ポスターセッション(午後4時10分~午後4時40分)



福島市清水地区幼・保・小・中学校
接続事業の取組み



本宮市立糠沢小PTAと
ぬかざわ遊友クラブの取組み



大玉村立大山小学校の取組み

3つの事例の内容について、さらに理解を深めるために、事例発表後に3つに分かれて、ポスターセッションを実施しました。

30分間という短い時間でしたが、発表で不十分だったところを付け加えたり、取組みの裏話などを話したり、さらに参加者からの質問に答えたりして、それぞれの取組みのよさや課題について参加者がしっかり理解を図ることができました。

講評(午後4時40分~午後4時45分)

講師: 目白大学人間学部講師 宇田川光雄 氏

講演をいただいた宇田川光雄先生より、最後のまとめとして講評をいただきました。

- 家庭と学校と地域がバラバラにあるのではなく、地域の中に家庭と学校があるのだということ再認識したい。
 - 今日の3つの事例発表はまさに地域の中の学校と家庭での実践であり、とても素晴らしい実践であったことを皆さんで確認したい。
 - これまで子どもたちには、「3つの間(ま)」が大切だと言われてきた。それは「仲間・時間・空間」である。例えば、子どもたちが遊ぶときにはこの3つの間(ま)は欠かせない。そこで、今回の事例を踏まえ、私は、「3つの間」に加え、新たに「親子間」「学校と家庭間」「学校と地域間(学社連携)」「子どもに関わる団体と団体間(子どもの奪い合いがあるが)」を加えたい。そして、その「間(ま・かん)の隙間をうめていくのが地域の人々なのであり、私たち親一人一人なのだと思う。
- 私たち親や地域が子どもにどう関わればよいのか、どんな役割があるのかを考えさせてくれるとてもよいヒントを与えてくれたセミナーだったと思う。

参加者の感想から

- ・ 家庭、学校、地域それぞれ、子どもに関わる環境、役割を明確にすることで、「何を」「どう対処する」かが見えてくる。教育は、子どもに限らず、大人も教育していかなければと感じた。
- ・ 実践参加型の講演がよかった。
- ・ 子どもに関わる時期だったらもっとよかった。今後地域などで子どもに関わるときに生かしていきたい。
- ・ 他の来場者（初対面）とのコミュニケーションができてよかった。
- ・ 有意義だったので、今後も実施を希望します。開催時間を少し短くしてほしい。（事例発表を少なくする）この時期、早く日が暮れるので遅いと困る。
- ・ 今まで参加したセミナーの中で一番参考になりました。ありがとうございました。
- ・ ポスターセッション担当の方は伝えたいことなどをもっと明確にしていきたい。
- ・ 自分の地域での取組みの参考になった。子育ての目線、見方、見守り方についてよい機会となった。
- ・ 本宮市放課後子ども教室コーディネーターの方の取組みを広めてほしい。これは校長先生レベルにもっともっと広めてほしい。「下校したら、校庭へは遊びに来るな」と子どもたちに話す先生はどのようなのだろうと思った。遊ぶ場所が少なくなっている現在なら放課後の校庭開放も「あり」だと思えますが。大玉村の取組みも校長の講習会などを開いた中で広めていってほしい。
- ・ 事例発表（本宮市子ども教室）のお話が興味深かったです。どのような運営（スタッフなど）しているのか、もっと詳しく聞いてみたいと思いました。
- ・ 参加型の講演、事例発表+ポスターセッションと形態・内容に工夫があり、表彰を受けた素晴らしい実践の報告が聞けてよかった。
- ・ 12:00頃入場してしまいましたが、受付の方が快く入場させてくださいました。ありがとうございました。
- ・ PTA連絡協議会と直接連携、そして多くのPTA役員の中でこのようなセミナーが定期的に持てればよい。
- ・ 家庭教育は今後益々重要になってくることと思います。学校での保護者対応についても第三者、家庭教育支援チームなどで大いに関わっていただき、子育て、親支援をしてほしいと願っています。
- ・ 中身が大変詰まっていて、とても参考になりました。
- ・ また改めて子育ての大切さを感じました。ありがとうございました。
- ・ 本日この場に来る立場の人より、普通の保護者の方が聞けるとよいと思いました。
- ・ 子育てには、学校だけでなく、地域・家庭との連携がとても大事だということを改めて知ることができた。
- ・ 参加型のセミナーだったので楽しく拝聴できた。
- ・ とてもよい。多くの方ともっと共有したいと思いました。ありがとうございました。
- ・ メニューが多すぎたのではないのでしょうか。
- ・ 小さな子どもを持つ母親としては、終了時間がもう少し早いと助かります。グラフの数値は読み上げずとも資料を見れば分かるので、そういうところで時間を工夫してもらえると参加しやすくなるのではないかと。
- ・ 冬なので早く始まり、早く終わってほしい。
- ・ 保育園と小学校の連携を考えていきたい。
- ・ 深い研究をしているところがあると感激した。
- ・ 休日でしたが参加してよかったセミナーでした。もっと広めたいですね。
- ・ 事例が参考となった。
- ・ 参加報告はしているが、当日受付は実施した方がよいのではないかと。